

高校卒業後に進学を希望する場合、最低限の学費くらいは準備をしておくのも保護者の責任のひとつかもしれません。ただ、今どきの進学にかかる費用は、保護者の学生時代とは大違い。何にどれくらいかかるのか、各種データと先輩保護者の体験をもとに今どきの進学マネーの実態をしっかりと把握しておきたいところ。さらに、資金が不足しそうな場合の調達方法もあわせてチェック! 高校1年生からの心構えと準備が、進学マネーを左右します。

費用を知って、早めに準備したい

今どきの 進学マネー

— 学費を助ける奨学金・ローンも紹介 —

構成・取材・文/インタープレス(光田洋子、三浦美紀) イラスト/おおさわ ゆう



Check↓

進学費用について〈親子で〉やっておきたいこと

高1

- 進学する意思はあるかどうか、おおまかな志望校やコースを話し合う
- 兄弟・姉妹がいれば、一人の子に出せる進学資金を公平に検討する
- 高3の夏までに用意できる資金の目途をつけ、不足分などを確認する
- 奨学金の種類や情報を集め、成績は常に一定以上を保つよう促す

高2

- 志望コースや気になる進学先の学費、入試の選抜方法などを調べておく
- 高校時代の補助学習費によって、進学資金が不足しないように注意する
- 給付型の奨学金の実施校などを調べ、志望校に加えることも検討する

高3

- 5~6月に募集する日本学生支援機構の奨学金「予約採用」に申し込む
- 志望校やコースを絞り込み、最終的な受験方法を決める
- 一般入試なら何校くらい受験するか、遠方受験の費用も調べておく
- 出願前に学校独自の奨学金や、教育ローンについても調べておく

進学コース別に チェック!

①

学校にかかる 年間費用と合計額

初年度と在学中の学費を
確認し、早めに準備したい

子ども一人にかかる教育費は平均1000万円前後といわれますが、この半分以上は高校卒業後にかかります。まずは進学コース別の学校納付金と、卒業までにかかる総額の目安を下の図で確認してください。

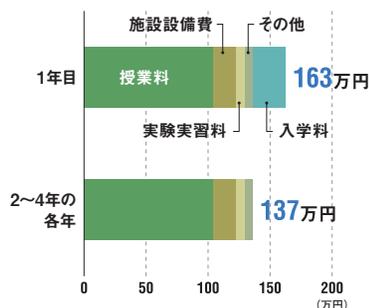
グラフの金額は、初年度と2年目以降にかかる学校納付金の年間平均額。国公立大学の場合、大学ごとに決められた入学金・授業料は学部・学科に関係なくほぼ同じです。

しかし、私立大学の場合は選んだ学部によって、平均額にも大きな違いがあります。比較的負担が軽いのは文系学部で、理工学部系はやや高め。それより高いのが美術・音楽などの芸術系学部。医歯系では初年度の費用だけでほかの学部の4年間の費用より高くなります。2014年度からは、施設設備の充実などにより学費を値上げる私立大学も出てきていることにも注意しましょう。

学校納付金以外にも、教材費や通学費などの学校関連費用があり、それらを含めた在学費用の総額が下段の金額。これらを目安に準備を始めましょう。高校卒業までに全額用意するのは難しくても、学費の一部は奨学金を利用したり、家計の中か

私立理系コース

合計 **574**万円



文系より年40万円ほど多く
特に薬学部の学費は高め

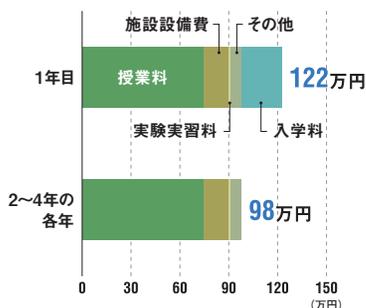
理系は総じて文系より高めで、学部別の初年度納付金は、理工学部が155万円、農・獣医学部が153万円。薬学部は217万円と最も高額で修業年数が6年のため、納付金は計1000万円以上。教科書代や指定のパソコン購入費も高く、キャンパスが遠方で交通費がかかることも。文系同様に学費を値上げる大学も登場。

4年間の総額の目安

600万円～700万円

私立文系コース

合計 **416**万円



私大の中では学費は低めだが
それでも初年度は122万円

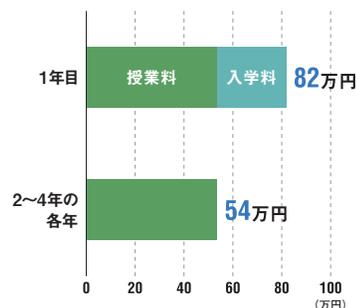
私立文系の納付金は上のとおりですが、大学によって納付金額や、徴収されるお金の名称はさまざま。授業料や施設設備費などを値上げる大学も出てきています。学部や学科によっては、ゼミ旅行が海外だったり、公務員試験用の特別講座の費用がかかったり、民間スクールや短期留学で、数十万円の出費増になることも。

4年間の総額の目安

500万円～600万円

国公立コース

合計 **244**万円



どの大学・学部も同程度の金額。
受験費用のかけ方で差が出る

大学ごとに学費を決められますが、多くの大学の納付金は上の平均額と同じ金額です。大学によって、諸経費などがかかる場合もあるので、事前に要項などで確認しておく安心。公立大学もほぼ同程度ですが、地元在住者には入学料を安くする大学も。私立併願の受験料や納付金、通学費用などで総額にも差が出てきます。

4年間の総額の目安

300万円～400万円

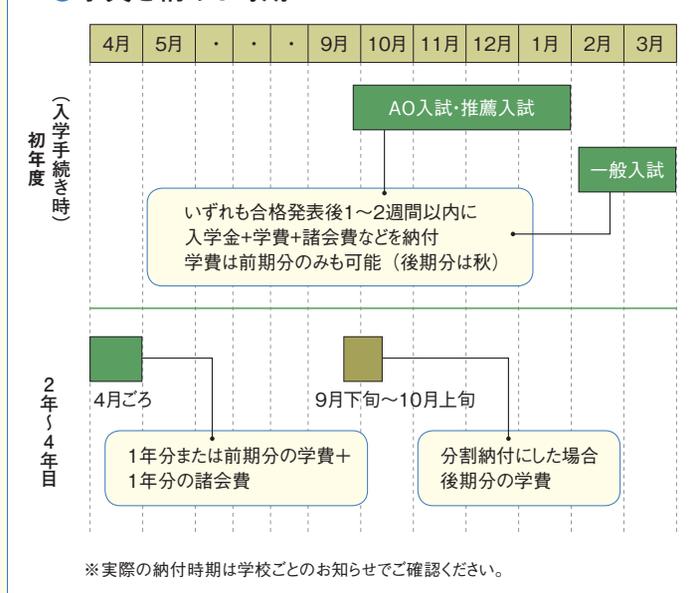
※グラフは、平成25年度入学者の初年度学生納付金平均額の調査(文部科学省)、専門学校は平成26年度学生・生徒納付金調査結果(東京都専修学校各種学校協会)、国立大学は平成26年度の標準額から作成(すべて昼間部)。



から捻出する方法があります。ただし、奨学金を利用する場合でも、最低でも初年度費用として100万〜200万円程度は、高校3年の秋ごろまでに用意したいもの。奨学金を受け取れるのは大半が入学後で、入学金などの支払いには間に合わないからです(左図参照)。2年目以降も学費を納める時期をしっかり把握して、計画的に納付金の準備をしましょう。

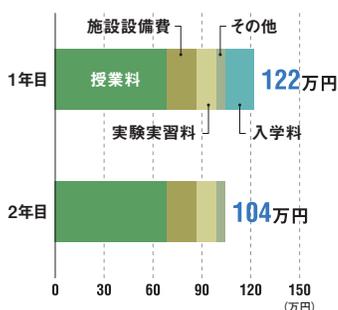
次のページで、学費以外にかかる出費を先輩保護者の体験談から紹介しますので、参考にしてください。

●学費を納める時期(大学などの一般的な目安)



専門学校コース

合計 **226**万円



年間平均は私大文系と同程度、医療系や製菓関連が高め

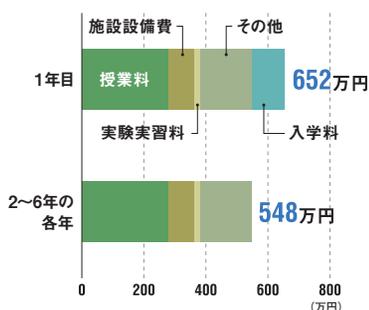
専門学校昼間部の平均額は上記のとおり。ただし、工業、芸術、医療、教育・福祉、ビジネスなど学科によって納付金に違いがあります。特に看護を除いた医療系や製菓関連の学校が高めで、初年度は160万〜170万円台。医療系は修学期間が3年以上の学科もあり、さらに教材費や実習費などが別途かかることも。

2年間の総額の目安

300万円〜400万円

私立医歯系コース

合計 **3392**万円



大学によって学費はさまざま。初年度の平均は**650万円**

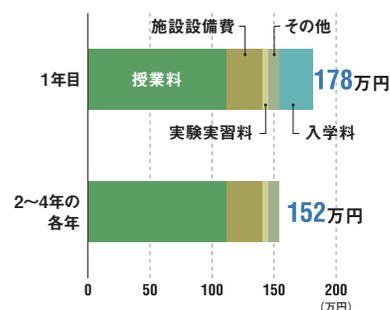
私立の医学部・歯学部の納付金は大学ごとに大きな違いがあり、ここ数年、学費を値下げする大学も増えています。修業年数が6年なので、学校によっては合計で数百万円下がったケースも。とはいえ、学費の負担が大きいことには変わりありません。学費のほかに、参考書や資料代、実習・実験の衣類や備品代などもかかります。

6年間の総額の目安

4000万円〜6000万円

私立芸術系コース

合計 **634**万円



全体的に**費用が高め**。2年目以降も**150万円以上**

美術や音楽などの芸術系の平均額は、入学料26万円、授業料111万円、施設設備費などが41万円。実技授業が多いため、授業料以外の費用が高め。実際の納付金は大学や専攻で異なり、そのほかに楽器購入費や個人レッスン代、コンサートやコンクールの参加費用、画材購入費などがかかるため、個人的な負担も大きいです。

4年間の総額の目安

700万円〜800万円

これにも
気をつけたい

2

受験料などの 入学までにかかるお金

推薦入試などを除き、大学入試はセンター試験を含めて複数校を受験することが多く、その費用もけっこうな負担になるのが一般的。さらに意外な出費もあって、学費のために用意していたお金を取り崩すことになることも…。

● 受験費用の例

		検定料(受験料)
センター試験(申し込み時)		3教科以上1万8000円 (2教科以下1万2000円)
国立大学	前期日程 後期日程	各1万7000円程度
私立大学	センター試験利用	1回1万~2万5000円程度
	一般入試	1回平均3万5000円程度※

※同一大学での複数学部の出願や、インターネット出願では、やや安くなることもある

センター利用入試を増やし
30万円以上の出費

私大の受験料は一般入試よりセンター利用のほうが安いので、つい「あの大学、この学科も」と多くなりがち。うちの子は10以上の大学・学部をセンターで受け、一般入試と合わせ受験料だけで30万円以上。でも、センター利用は競争率が高く合格者が少ないので、案外難しいかも。(私大文系2年の母)

地方の大学の受験に
親も同行して出費は2倍

地方の国立大学受験のため、前年の秋に娘が大学近くのホテルに前泊用でシングルを予約。直前になって、娘一人で行かせるのは不安になり、私も付き添うためにツインに変更しようとしたら、ホテルはどこも満室。駅近くのホテルを探すのに苦労しました。2人分の宿泊代・交通費で、完全に予算オーバーでした。(国立大文系1年の母)

願書の入手や郵送料、振込代など
細かい出費もまとまると意外に負担

受験の願書をそろえるために、志望校+滑り止め校の入学案内を買ったら、それだけでなんと1万円以上。受験料のほか振込代、出願書類を郵送する書留代などの細かい出費も多い。ネット出願だと少し安いけれど、全部の大学ができるわけではないし、郵送とネットを併用すると混乱も…。(私大2年の母)

現役合格のためなら
滑り止め校の入学金も覚悟

国公立志望だと、滑り止めの私立の受験料や入学金も絶対に必要。私立は第一志望の前に第二志望の入学手続きの締め切りがあり、知り合いは2校とも入学金を払ったそう。うちはたまたま1校だけで済んだけれど、それでも受験料と入学金で50万円くらい捨て金になりました。(公立大3年の母)

浪人生にかかる予備校代

できれば避けたいけれど、現役での受験に失敗し、本人が「もう1年頑張る」と言ったら、親としては応援しないわけにはいかないことも。そうすると、予備校代などの費用もかかります。

夏冬の講習代が
別料金と知ってビックリ!

浪人するとわかった時点で、すぐに予備校探し。息子は高校の先輩たちが通っていた予備校がいいということで、そこに決めたいけれど、最初に一括で納める年間費用は約70万円。意外に安いと思ったら、夏休みと冬休みの講習代は別料金で、結局、年間では100万円程度の出費に…。(都内私大生の母)

● 予備校の学費の目安

全国規模の大手予備校の例

コース	入学金	授業料	夏期・冬期講習	年間合計
国立	10万円	66万5000円 ~76万5000円	5科目 ×夏・冬で 16万4600円	92万9600円 ~102万9600円
		57万円 ~76万5000円		83万4600円 ~102万9600円
私立	10万円	64万円 ~68万円	3科目 ×夏・冬で 9万8760円	83万8760円 ~87万8760円
		64万円 ~68万円		83万8760円 ~87万8760円

首都圏の私大文系向け予備校の例

コース	入学金 ほか	授業料	年間合計
東京の 人気大学 コース	個別対応授業あり	82万円	100万円
	集団授業のみ	52万円	70万円
	講座週6コマ選択	22万円	40万円

※夏期・冬期講習を受ける場合、費用は別途かかる(講座料の割引あり)

学割がきかない予備校で
通学定期代が割高に!

高校生や大学生なら定期代も学割でかなり安くなるけれど、予備校生って学割がきかないこともあるみたい(学校や授業日数で異なる)。うちの場合、電車とバスの両方使うため、月に約3万円、6カ月定期でも16万円くらいとけっこうな金額。この定期代が思いのほか、きつかった。(神奈川の私立大3年の母)

予備校代のほかに、苦手科目の
家庭教師をつけて出費増に

うちの子は勉強が苦手で、予備校に通っても成績は今一つ。仕方なく、10月から古文と英語だけ家庭教師を頼みました。2科目別々の家庭教師にしたので、受験ギリギリの1月までの4カ月で40万円近くの出費。浪人時代は、大学の1年目と同じくらい、お金がかかったと思います。(都内在住の働く母)

予備校に行かない代わりに
通信教育と模試代がかかった

高3のときは予備校に通っていましたが、浪人したら「予備校は合わない」と言いだして、家で勉強。念のため、通信教育で勉強していましたが、予備校に行かないと勉強の成果が測れないので、夏以降は模擬試験を何度も受けて、その費用も案外かかった。全部で50万円くらい。(私立大2年の母)

自宅外通学にかかる 下宿代や仕送り

人によっては、地方から首都圏や関西圏の大学に進学したり、首都圏から地方大学に進んだり、自宅外通学になることも。アパートなどで一人暮らしをする場合、右のグラフのように仕送りだけでは生活費は足りないかも…。

東京の一人暮らしの 初期費用が50万円！

九州から東京の私大に入学。合格後に大学周辺のアパートを探したけれど、都心部なので家賃も高く、敷金・礼金などの最初に支払うお金も高額。安いところだと通学に30分以上かかるけれど、東京だとそれくらい当たり前と言われ、何とか決定。入居までに生活用品も含め50万円の出費です。(宮崎県在住の父)

寮生活なのにバイトをできず 仕送りを減らせない

息子は地方の大学で寮生活。キャンパスも寮も街から離れていて、周囲にバイトするところがない。街に出れば少しはありそうだけど、交通手段はバスしかなく、最終バスは夕方6時前で、授業後にバイトに通うのもムリ。2年生になったら減らせるかと思った仕送りも、まだ当分かかります。(埼玉県在住の母)

奨学金とバイトでやりくり。 でも、臨時出費が案外多い…

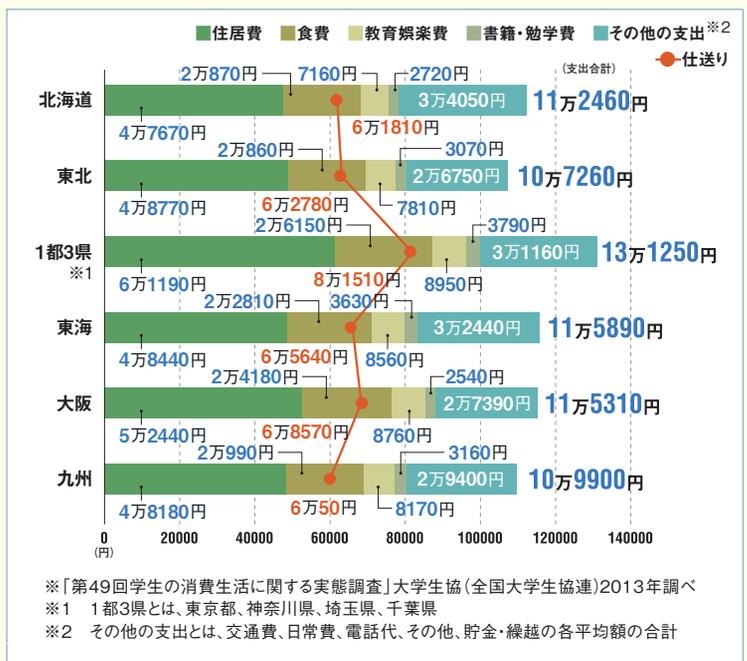
家賃と光熱費は親の口座から引き落としで、食費などの生活費は奨学金で賄い、不足分はバイト代でやりくりしているよう。でも、ゼミの合宿や公務員試験用の特別講習など、学費以外の教育費は、そのつど仕送り。今春は民間の就活塾に参加したいと16万円ねだられました。(私大3年の女子の父)

食事付きの民間の学生寮は 安心だけど年100万円以上！

大学は自宅と同じ東京都内だけど、通学に2時間半もかかるので、寮に入ることに。3月末では大学寮は満室で、民間経営の学生寮に決定。1年目は保証金と年間の寮費、布団や冷蔵庫などのレンタル代で160万円くらい振り込み。寮は朝晩の食事付きで月約10万円。男の子だから仕方ない。(私大2年の母)



一人暮らしの学生の1か月の生活費(地域別)



留学・留年、大学院 など+aの学費

学校や学部によっては留学希望者も多く、就職のために留年したり、大学院に進んだりすることも。そうなると学費は何年続くのか心配…。ちなみに大学院の費用も大学並みにかかることを覚悟して。

●私立大学大学院にかかる費用

	人文・社会科学	理工・農学	家政・芸術
入学料	22万963円	22万6132円	22万6902円
授業料	59万9313円	82万1140円	87万9217円
施設設備費	8万1351円	9万8373円	19万7128円
実験実習費	9335円	7万1202円	2万4462円
その他	2万6033円	1万7923円	4万5699円
初年度合計	93万6996円	123万4769円	137万3407円

※上記は文部科学省「平成25年度私立大学大学院入学者に係る初年度学生納付金」の博士前期課程の平均。博士後期課程も同程度の納付金がかかる。
 注) 同じ大学の卒業生などは、大学院の入学料は免除または減額になることもある。

夏休み中の短期留学は 自己負担で約80万円

大学の留学制度を利用した留学なら、奨学金や助成金をもらえたり、留学先の授業料が免除になることもあるそうですが、個人で行く短期留学は全額自己負担。娘は英語を磨くためイギリスに1か月留学し、渡航費・滞在費・学費、申請費・保険などで80万円近くかかった。少し割高だったかも。(女子大生の母)

1年浪人+1年留年で 大学卒業まで6年も!

次男は都立高校を卒業し、1年浪人して私立大学の建築関係の学部に入學。でも、2年の半ばに、必修科目の一つを落としてしまい留年が決定。4年になってすぐに就職先の内定も取れたからよかったけれど、結局、卒業までの6年間に、1000万円以上の教育費がかかったことに。(私立大4年の親)

理系で大学院に進学予定で 学費も仕送りもまだ続く

うちは工学部の機械科で、卒業後は当然のように大学院に進むそう。先輩も2人に1人は大学院を選択したとか。聞くと、同じ大学の大学院でも再度入学金がかかり、学費も大学と同程度かかるよう。学費の半分は奨学金で支払うから、残りのお金と仕送りを頼まれ、親の苦労は続きます。(トホホの母)

就活を理由に1年留年。 1年分の学費が追加負担

息子は4年の春に内定をもらった会社が意に沿わず、辞退して就活を続けたら、夏以降はさらに厳しくなり、やる気を削がれたみたい。早々に留年を決定。就職先が決まらずに卒業しても、さらに条件は悪くなるからだとか。1年余分にかかる学費は、誰が負担すると思っているのかしら。(怒れる新4年生の母)



大学生の2人に
1人は利用中!?

3

奨学金の きほんと仕組み

●奨学金の主な種類

日本学生支援機構の奨学金	自治体の奨学金	民間企業・団体の奨学金	大学独自の奨学金
国の予算を受けて大学・大学院、専門学校生などに貸与型で支給。毎年の採用枠が決まっており、在学中に学校を通して申し込む	都道府県や市区町村ごとに、居住者向けに実施。条件や支給額、支援機構の奨学金との併用の可否はそれぞれ異なる	特定の分野で活躍できる人材の育成や、経済的支援などを目的に実施。学校や学部が指定される場合もあり、種類は多いが採用数はそれぞれ若干名	優秀な学生への経済的支援などを目的に、授業料相当やその一部を給付するタイプが増加中。入学前に申請できるものと、入学後に申請するタイプがある
貸与型で2種類	貸与型が多い	貸与型 給付型	貸与型 給付型



●申し込み方法

予約採用 (入学前の申し込み)	高校3年の春に学校を通して行う。秋に追加募集がある学校も
在学採用 (入学後の申し込み)	入学した大学・専門学校を通して春に行う。募集は年1回のみ
緊急・応急採用	災害や失職で家計が急変した場合など、そのつど学校窓口へ相談

**学費を補うには最適ですが
貸与型は将来、返還が必要**

大学や専門学校への進学資金が不足しそうなときは、奨学金や教育ローンで補うことができます。奨学金は、今や大学生の2人に1人は利用しており、学費の調達手段としては最適なので、まずはこちらから調べて検討しましょう。

奨学金にはさまざまな種類がありますが、大きく分けると上図の4つに分かれます。また、奨学金のタイ

●日本学生支援機構

大学生の奨学金の利用条件（予約採用・2015年度入学者の場合）

種類	申し込み基準	貸与金額
第一種奨学金 (無利息)	学力 高等学校の1年から申込時までの成績の平均値が3.5以上	国公立/ 自宅通学 月4万5000円 自宅外通学 月5万1000円
	家計(目安) 4人家族 給与所得者：年収801万円以下 それ以外：年間所得369万円以下 5人家族 給与所得者：年収917万円以下 それ以外：年間所得485万円以下	私立/ 自宅通学 月5万4000円 自宅外通学 月6万4000円 上記のほかに、国公立・私立や通学形態を問わず、月3万円も選択できる
第二種奨学金 (利息付)	学力 高等学校の学業成績が平均水準以上、大学における学修の意欲があり学業を確実に修了できる見込みがあると認められるなど	大学や通学形態を問わず月3万円、5万円、8万円、10万円、12万円から選択。私大の医学・歯学・薬学・獣医学課程は増額が可能
	家計(目安) 4人家族 給与所得者：年収1117万円以下 それ以外：年間所得685万円以下 5人家族 給与所得者：年収1259万円以下 それ以外：年間所得827万円以下	
入学時特別増額貸与奨学金 (利息付)	第一種・第二種奨学金の申込者で、以下のいずれかを満たす人。 1) 奨学金申請時の所得金額がゼロ評価となる人（4人家族・給与所得者で年収400万円以下程度） 2) 1)以外の人で、日本政策金融公庫「国の教育ローン」が利用できなかったことを証明する書類を提出した人	一時金で10万円、20万円、30万円、40万円、50万円から選択

※在学採用(緊急・応急採用含む)の場合、家計基準は異なる

奨学金アドバイザー 久米忠史さんに 聞きました!

「奨学金なるほど相談所」のサイトを運営。高校、大学などでの講演多数



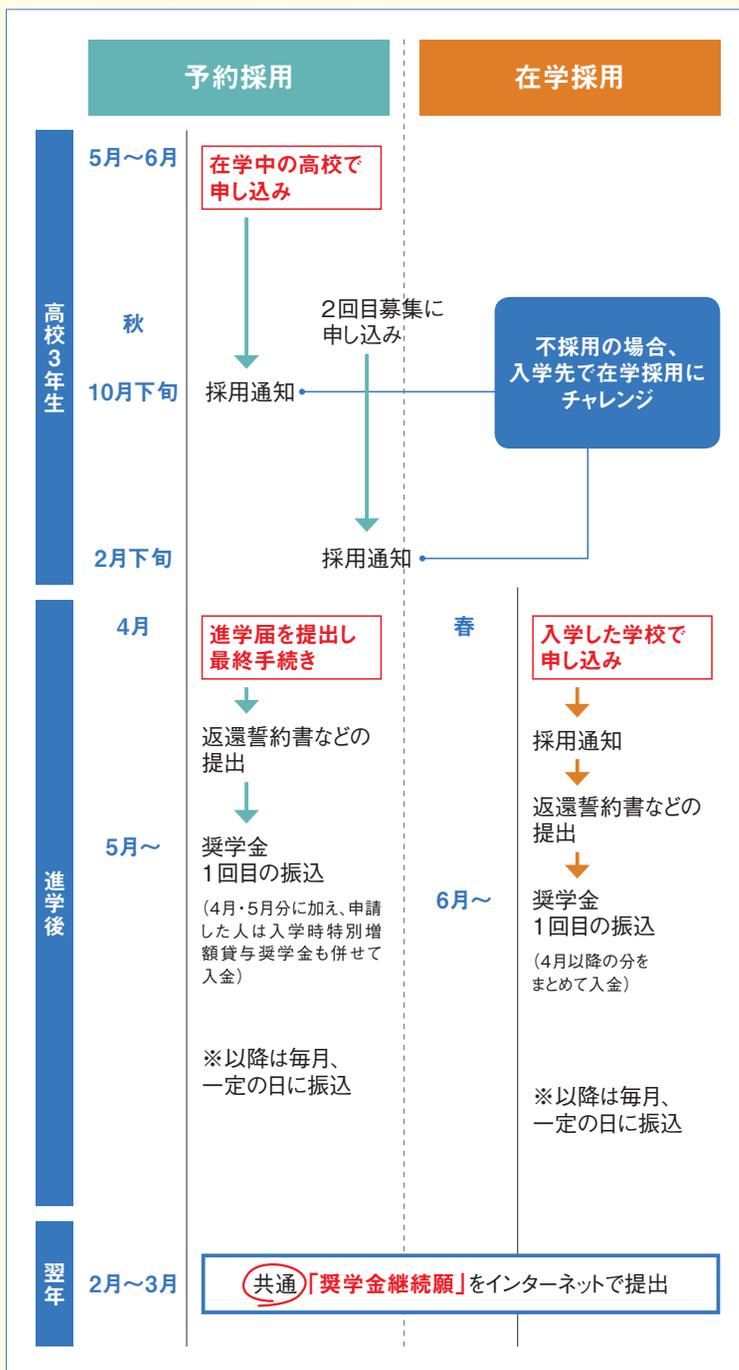
親子で書類の準備をして 高3の春に申し込みを

支援機構の奨学金は、今は受給者の7割が予約採用です。奨学金を借りる可能性があれば、必ず高3の春に学校で申し込みましょう。予約採用は年2回募集がありますが、2回目は第二種のみで決定通知も遅くなるため、できるだけ春に申し込みを。予約採用は、地域や学校に関係なく平等に審査されます。入学後に申し込む在学採用だと、大学ごとに採用枠が異なるため、採用率は低くなることも。予約採用の際に第一種が不採用で第二種になっても、在学採用で第一種への変更にも挑戦できます。予約採用はネットで申し込むため、学校のパソコンを使い、生徒本人が行うことが多いですが、世帯収入などの情報も必要のため、資料を見て、親も下書きなどを手伝ってください。申し込みコースは「第一種のみ」より、「第一種を希望するが、不採用なら第二種を～」を選ぶほうが採用されやすいですよ。

支援機構の奨学金 申し込みのポイント!!

- 高校で申し込む予約採用は平等に審査される
- 予約採用でダメでも、在学採用で再チャレンジできる
- 予約採用で書いた金額などは最終手続きで変更・辞退も可能
- 申し込みコースは「第一種」にこだわらない選択肢にする
- 予約採用で決定したら、入学後には進学届の提出を忘れずに

● 日本学生支援機構の手続きスケジュール



※申し込み・手続き期限などは学校ごとに決められているので注意

プには、卒業後に返還が必要な「貸与型」と、返還の必要がない「給付型」があります。

実際には、奨学金受給者の約8～9割が利用しているのは、独立行政法人・日本学生支援機構が運営する奨学金のため、この仕組みからしっかり確認しておきましょう。

支援機構の奨学金は、国の予算と卒業した人からの返還金で運営されている貸与型です。種類は、卒業後に無利息で返還する「第二種」と、利息付きで返還する「第一種」があり、どちらかの申込者が併せて利用できる「入学時特別増額貸与奨学金」もあります。

申し込みは、高校3年の春に募集する「予約採用」と、大学などの入学後に募集する「在学採用」のいずれかの受け付け時期に、学校を通して行います。上図の手続きスケジュールのとおり、予約採用で決まらなくても、入学後に再度、在学採用で申し込みすることもできます。

このほか、居住する自治体の奨学金や、民間企業・団体の奨学金、大学独自の奨学金も調べてみる価値はあります。大学独自の奨学金は、ここ数年で給付型が増えているので、条件に合えば応募してみましょう。給付型の奨学金を受給できれば、その分だけ、学費の負担は軽減します。



奨学金を補う お助け手段

4

教育ローンの種類と利用法

まずは
これから
検討を!

●民間金融機関の教育ローン

融資金額	最高300万～500万円程度
使い道	入学金や授業料などの学校納付金が一般的だが、金融機関によっては、下宿代などの進学準備金や、塾、予備校費用などに使える場合もある
金利(年)	変動金利が主流で、2～4%台が一般的
返済期間	10年以内が一般的
主な借入れ条件	金融機関によって異なるが、申し込み時20歳以上で、前年度の税込み年収が200万円以上、勤続年数1年以上など

●学校提携・信販会社の教育ローン

融資金額	最高500万円程度が一般的
使い道	入学金や授業料などの学校納付金。信販会社から直接学校に振込
金利(年)	信販会社や学校によって異なるが、主に固定金利で3～4%台
返済期間	10年以内が一般的
主な借入れ条件	入学・在学中の学生の保護者は安定した収入のある人

●日本政策金融公庫「国の教育ローン」

融資金額	子ども1人につき最高350万円(海外留学費用は最高450万円まで)	
使い道	学校納付金、受験費用、敷金・家賃などの住居費用、教科書代や通学費用など	
金利(年)	固定2.25%(2015年2月9日現在)	
返済期間	15年以内。在学中は元金据え置き可	
主な借入れ条件	世帯の年間収入(年間所得)が下の金額以内であること	
	子ども1人	790万円(590万円)
	子ども2人	890万円(680万円)
	子ども3人	990万円(770万円)
	※子ども1人増えるごとに、年間収入は100万円ずつ加算	
	※要件 1) 勤続(営業)年数3年未満 2) 居住年数が1年未満 3) 世帯のいずれかの人が自宅外通学(予定)者 4) 借入申込人または配偶者が単身赴任 5) 海外留学資金として使う 6) 返済負担率が30%超 7) 世帯年収に占める在学費用の負担率が30%超 8) 「在学費用+住宅ローン」の負担率が40%超 9) 親族に要介護(要支援)認定を受けている人がいて、介護費用を負担している 10) 親族に「高額療養費制度」、「特定疾患治療研究事業」「小児慢性特定疾患治療研究事業」による医療費の公的助成制度を利用している人がいて、その療養費用を負担している	
その他	保証基金を利用する場合、保証料は融資金額から一括で差し引かれる	

下の※要件に
1つでも該当すれば
990万円
(770万円)まで

奨学金を受給できるのは、入学後になります。入学が決まったら、すぐに支払いが必要な初年度納付金には間に合いません。入学時に必要な納付金を賄う手段としては、教育ローンを利用する方法があります。

奨学金は子ども自身が申し込み、受給するのに対し、教育ローンは収入のある親が申し込みます。貸与型の奨学金は子どもに返還の義務が生じますが、教育ローンは申し込んだ親が返済していく点が異なります。

教育ローンには、上のような種類があります。「国の教育ローン」を利用するには、世帯収入などの条件に合うことが必要ですが、一昨年から年収990万円の家庭まで利用できる要件が拡充しました。当てはまる家庭は、金利が固定で低い国の教育ローンから利用するといでしょう。

民間の教育ローンは変動金利が主流で、金融機関によって条件や利率は異なります。学校が提携する信販会社のローンは、審査が早いのが特徴ですが、利率はやや高め。

利用する際は、早めに動いて調べておくと、有利なローンを選びやすくなります。また、借入額は必要な金額だけ最小限に抑えたいものです。

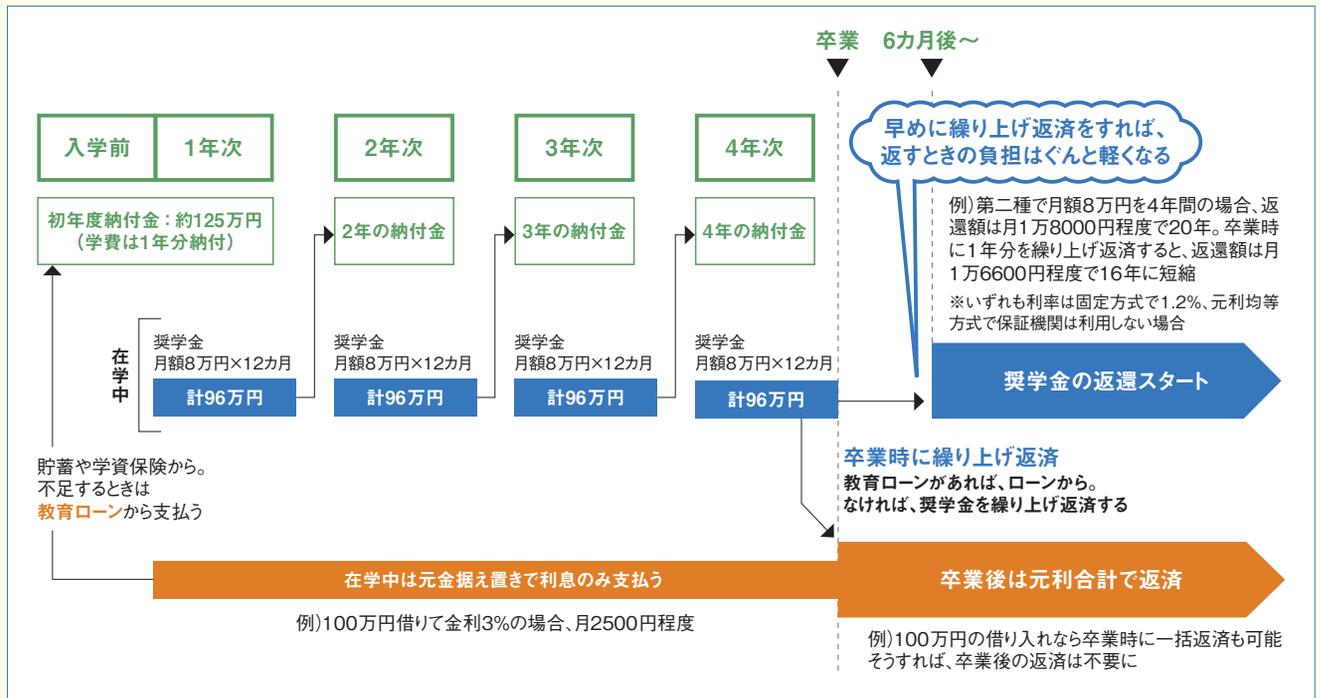
入学時の不足分を賄うなら
教育ローンを使う手も

要チェック!

奨学金や教育ローンを利用するなら

●負担を抑えるこんな使い方、返し方を!! (奨学金や納付金は私立大文系の例)

奨学金の場合、在学中は無利子だが、教育ローンは借りた翌月から利息がかかる。利用するなら、下のような利用法で返済時の負担を抑えよう!



学費支払いシミュレーションが
ネットでできる!

リクナビ進学 保護者版

子どもの学びたいことが学べる学校・学部学科探しから、各学校の学費や奨学金、卒業後の進路や受けられる就職サポートなど、保護者の方々に知っていただきたい情報が満載。中でも「学費シミュレーター」は、学費の相場や卒業までの総額がわかるほか、家計情報を入力することで支払いシミュレーションができる人気コーナーです。

「学費シミュレーター」の3つの特長

- 1 志望校の卒業までの学費総額や、学部別の相場がわかる
- 2 家計への学費の影響がグラフでわかる&専門家からのアドバイスも
- 3 子ども3人まで入力でき、学費の重なりが一目瞭然!



みんなはどうしている?

借りたお金の返し方

返済は順調に進んでるわ



奨学金やローンの返済は、10~20年続くのが一般的。今の時代、きちんと返せるか不安に思う人もいるでしょう。すでに返済している先輩たちの例を紹介するので、親子で参考にしてください。

返済は10年以上なので 結婚後も返済しています

妹の大学入学のため、大学3~4年に奨学金を借りました。卒業後に毎月返済し、卒業から5年目で結婚しましたが、まだ返済中。今は奨学金の返済分も家計の予算に入れて、確実に返済しています。夫は奨学金について気にしていませんが、結婚前に一括返済しておけばスッキリしたかも。(節約主婦を目指す妻)

毎月の返済は順調だけど 一人暮らしで貯蓄ができない

私大に進学するとき、親の負担を少しでも減らしたいと思って、支援機構の第二種で毎月5万円借りました。お給料をやりくりして、毎月1万5000円程度を順調に返済中。返済期間は15年なので、お金を貯めて繰り上げ返済したいと思っているけれど、なかなかお金が貯まらない。(一人暮らしのOL)

無駄遣いせずにお金を貯め 3年後に奨学金を完済

大学と大学院の合計6年間、支援機構の無利子の奨学金を借っていました。約400万円借りて、当初17年ぐらいの返済予定でした。勤め先は仕事が忙しく、一人暮らしでも自炊して無駄遣いしなかったため、貯蓄は3年で400万円近くに。その貯蓄を繰り上げ返済に充てて完済しました。(メーカー勤務の30代会社員)

結婚・出産を経て、来年に 繰り上げ返済で完済する予定

大学の学費を支援機構の第二種で借りました。現在31歳で、まだ返済中です。今まで100万円ぐら返済して、140万円ぐらい残っています。2年前に出産し、去年仕事に復帰。今は共働きで貯蓄を頑張って、来年繰り上げ返済して完済する予定。奨学金が完済したら、2人目が欲しいです!(子育て中のママ)